

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 18 章 1~5 節>

①つまずいて痛い目に遭うことは一杯ある。ここは何を指す？

今日の箇所のテーマは「つまずく」です。しかし、何につまずくのが大事です。冒頭に、「わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせるものは」(6)とあります。つまり、イエス・キリストを信じることをつまずかせることです。その者は「大きな石臼を首に懸けられて、深い海に沈められる方がましである」と言われるのですから、これにつまずかないことが大事なのです。つまり、人生、つまずくことは一杯あってもいいのです。イエス・キリストへの信仰につまずかなければ！

②つまずかせる人は問題。しかし、その人を恨んでも筋違い！

「つまずきをもたらす者は不幸である」(7)と主イエスは言われます。私たちの主イエスへの信仰をつまずかせるものに要注意です。また、誰かの主イエスへの信仰を私たちが妨げないようにしなければならないことも要注意です。しかし、その前に、「世は人をつまずかせるから不幸だ。つまずきは避けられない」とも言われています。つまずきそうになることはあってもいいのです。そこで信仰が試されていると思えばいいのです。「私の兄弟たち、色々な試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。信仰が試されることで忍耐が生じると、あなたがたは知っています」(ヤコブ 1 : 2-3)。

③つまずきの乗り越えは、神様から与えられた恵みを考えること！

ですからこの後、「自分の中のつまずかせるもの」にテーマが変わっていきます。マタイは特に性的な罪を考えています (5 章 29~30 節)。姦淫の罪を聖書的にどう考えるべきかは大事な問題です。「言うのも恥ずかしい不埒なこと」といったことで済ませてはなりません。旧約聖書で神様は、別の神への信仰に走ることを「姦淫を犯した」と表現され、非難されています。姦淫の罪は、本来の相手との信頼関係を壊してしまうことが問題なのです。神様や相手が自分に与えてくれた幸い、恵み、赦しを考えると、つまずきの誘惑は乗り越えられるのです！